

# Nara Prefectural University Campus Journal

2016.10 vol.3

## ■ 卷頭エッセイ

## 学問するのは心を直さんためなり

奈良県立大学客員教授 岡本彰夫

## ■ 特集

コモンズゼミの活動

東アジア・サマースクール

学生執行会の活動紹介

国際的な取り組み





研究・実践活動等の報告書の配架(奈良県立大学附属図書館より)

づくりイベントの企画・実施、地域活性化のプロジェクトへの参画、各種ボランティア活動、地域と連携した文化芸術活動、過疎地域の現状の調査など、様々なテーマや問題に各コモンズの教員・学生が前向きに取り組んできました。

本学が地域と連携してこうした取り組みを展開していることは、地域創造学部の一つの使命でもあります。しかしながら、仮に、教員が地域での実践活動の発表会を開催し報告書を作成して終わり、また、学生も実践体験に満足しただけでは大学としての役割を十分に果たしたとは言えないでしょう。「地域創造」という実践的な活動が、大学での研究や学びにフィードバックされ、客観的な立ち位置からの議論と分析を通じて新たな知見の提示や学問的な理論化がはかられるべきだと思います。教員であれば、研究論文を書き、本として出版し、社会に示してこそ大学と名乗ることができるのでないでしょうか。

こうした地道な研究の積み重ねが、地域の現実的問題を理解し、分析し、解決法を提示するための基盤となり、真に「地域創造学部」として社会に貢献することに結びつくのでしょうか。私たちは、実践と研究を連環させていくためのいつそ努力をしていきたいと思います。

## 実践と研究の連環を



学生部長 堀野 正人

## Contents

実践と研究の連環を	
学生部長 堀野正人	1-2
巻頭エッセイ	
一学問るのは心を直さんためなりー	
奈良県立大学 客員教授 岡本彰夫	3-4
観光創造コモンズ	5
都市文化コモンズ	6
コミュニティデザインコモンズ	7
地域経済コモンズ	8
東アジア・サマースクール2016	9-10
学生会執行委員会の活動紹介	11
クラブ紹介	12
国際的な取り組み	13
TOPICS	14

<表紙写真について>  
あじさい  
Azi祭(学生主催の運動会)での  
騎馬戦のようす



「奈良県立大学」のロゴマークは、シルクロード経由で伝わったとされる「唐草模様」のイメージで「NARA」の文字をデザインし、奈良の枕詞「青丹よし」の色である青色(緑色)と朱色、冠位十二階の最上位の色である紫色で「最高学府」に相応しい県立大学のロゴを表現しました。

制作者: 東京藝術大学名誉教授・奈良県立大学客員教授  
絹谷 幸二

# 学問するのは心を直さんためなり

奈良県立大学 客員教授 岡本彰夫

卒業した高校の同窓会で、講演せよとの連絡があり、出席した。

約二百名程度の参加者で、五十名が先輩方で同窓会の役員さん。あの百五十名が今年卒業したという学生ら。なんでも抽選会の賞品が良いのと、卒業して数ヶ月という事もあって、毎年新卒生が多いのだという。

最初に総会があつて、諸先輩の役員さんが、事業報告に決算・予算と型通りの会議が進められていく。舞台下の最前列に陣取つて会議のなり行きを聞いていた私だが、後列の新卒生が、ワイワヤガヤ隣と話をするので、役員さんの声は聞きとりにくいし、第一先輩方に失礼千万だと思って座つていた。

約二十分も経つた頃、あまりの常識の無さに辛抱たまらず、立ち上がりて後ろを向き、「会議中だ、静かにしなさい!!」と怒鳴つてみたが、一向騒ぎはおさまらない。ついにそのまま会議が終了して、次に私の講演となつたトタンに、会場は静まりかえつた。何事がおこうたのかと振り向くと、騒ぎまくつていた五百人が全て退場し、壇上から降りて来られた役員さんと、新卒業生の中の四人だけが私の講演を聞いてくれた。

県内でも有数の進学校であるが、こんな非常識な学生が社会へ出て行くのかと思うと、身の毛もよだつ思いがした。

後刻先輩方に、もう新卒生は

会場に入れぬ方が良いのではないですかと進言した。

卒業生であるから、可愛い後輩

を前にして怒鳴りもするが、普通の講師なら怒り心頭だと思う。

近頃大学の授業では、起立・礼・着席も無い。先生がスケート出て来て、突然しゃべり始め、終わればそのまま帰つて行く。そんな授業が許されぬ気持ちがあつて、私の授業はどの学校に行つても、ま

ず学生諸君に必ず起立・礼・着席をする旨説明して、自ら号令をかけて実施することにしている。

一人芝居のようで甚だ空しいが、致し方ない。

大学は「社会の予備校」であるからして、社会生活に必要な最低限の常識は元より、もつと人間教育という事をせねばならんと、十何年来思い続けて

いる。トドのつまり必要なのは人間性なのである。どんな素晴らしい事を言つても、人間性が悪ければ認められない



快勝師が「学問するは心を直さんためなり」と古言を引用されていたことを思い出し、その原典が知りたくて、親友の西大寺・酒部浩明師に教えを乞うた。

それは鎌倉時代の名僧で西大寺中興の祖、後に興正菩薩の名を賜つた叡尊上人が、弟子に示された数々の教えを書きとつた『教誠聴聞集』の中にあつた。原文を示して、要点を説明しておこう。

- ◆ 快勝師が「学問するは心を直さんためなり」と古言を引用されていたことを思い出し、その原典が知りたくて、親友の西大寺・酒部浩明師に教えを乞うた。
- ◆ それは鎌倉時代の名僧で西大寺中興の祖、後に興正菩薩の名を賜つた叡尊上人が、弟子に示された数々の教えを書きとつた『教誠聴聞集』の中にあつた。原文を示して、要点を説明しておこう。

或時ノ御教訓云、學問スルハ心ヲナヲサム為ナリ。當世ノ人ハ物ヲヨク読付ムトノミシテ心ヲナラサムト思ヘルハナシ。學問ト申バ、先其ノ義ノ趣ヲ心得テ常ニ我心ヲ聖教ノ如クナリヤ否ト知ナリ。我心ヲ聖教ノ鏡ニテ見ルレヨ。先イソギ各心ヲ直サルベシ。心ニ聖教ヲ習トイヘドモ、菩提心ナキひとハ冥加ナキ也。只ヨロヅ差置テ菩提心ヲ發テ、其上三修行スベシ。足手ヲ安不シテ修行スルヲバ所依ト名ク。心ヲ直スモテ修行ノ源トスペシト云々。

◆ 机上の学問では駄目だ。手足を休

というものである。何点か要点を示しておこう。

- ◆ 学問をするのは自分の心を直すためである。
- ◆ 世の人は知識を求める事にのみ心して、心を正そうとする者はいなない。

◆ 勉学にいそしむながら、心を直して行くのである。心が美しくなるぬような学問をして何の益があるうか。

◆ いくら勉学にいそしむとも、向上心の無い者、人の為・世の為に生きようする心の無い者には、天地の加護は与えられず、運にはめぐり難いのだ。

◆ つまらぬ事を思わず、気宇壮大な生き方を目指して、日々修行だと思い、苦しい事から逃げず、それ乗り越えて行かねばならない。

◆ 机上の学問では駄目だ。手足を休

めず修行する。つまり実践あるのみである。修行とは行う事、活動する事、実現に向かつて行動していく事である。そして心と体のバランスがとれていなければならぬのである。

◆ いつようによく私は訳している。成功も勉強なら、失敗も勉強である。素晴らしい人になる事ほど、むつかしい事はない。しかし、むつかしいか

のである。

奈良は日本中で最も、素晴らしい人になるための学問をするに最適の環境になるのである。



Profile  
おか もと あき お  
岡本 彰夫

1954（昭和29）年奈良県生まれ。  
1977（昭和52）年國學院大學文学部神道学科卒業後、春日大社に奉職。  
春日大社では殊に祭儀の旧儀復興に尽力し、恒例御神樂や春日若宮おん祭の御旅所祭などの故実並びに古式神饌等の古儀復興、社伝神樂廢絶曲の復元、三旬奏楽の復興等、数々の神事を本儀に復すとともに、式年造替においては、明治維新期に失われた儀式を平成七年の第五十九次式年造替でほぼ完全な形で復興させた。

2001（平成13）年より2015（平成27）年まで春日大社権宮司。1993（平成5）年より2007（平成19）年までに国立奈良女子大学文学部非常勤講師。1998（平成10）年より2004（平成16）年まで帝塚山大学非常勤講師。2013（平成25）年から2015（平成27）年まで帝塚山大学特別客員教授。現在、奈良県立大学客員教授。宇賀志屋文庫庫長。

著書に『大和古物散策』『大和古物漫遊』『大和古物拾遺』（以上ペリカン社）、『神様にはめられる生き方』『神様が持たせてくれた弁当箱』（以上幻冬舎）、『大和のたからもの』（淡交社）がある。



# 観光創造

## 「観光」を立体的に学ぼう！

## 学びのOneシーン

### コモンズ

- 観光ビジネス・政策
- 景観マネジメント
- アジア・グローバル観光交流



# 都市文化 コモンズ

- 都市社会史
- メディア・表象
- アート・アミューズメント

奈良県立図書情報館での展示風景

「観光」は、今や国として地域における成長の牽引力として、最も注目されている産業分野の一つです。一方で「観光」という学問は、非常に間口が広く、多種多様な領域やテーマが複合的に関わってきます。本学の観光創造コモンズは、それらの広範な学修に幅広く対応できるよう「観光ビジネス・政策」「景観マネジメント」「アジア・グローバル観光交流」の3つの分野を設けています。そこではホスピタリティ産業、運輸交通、公共政策、ランドスケープ、地理学、歴史・文化財、文化人類学、観光倫理、食文化、国際旅行産業などの各領域やテーマをテーマパーとしています。さらに「講義・ゼミ、フィールドワーク」をバランスよく織り交ぜながら、「観光」を多方面から立体的に学修することを目指しています。例えば、明日香村をはじめ県内の複数の自治体や地域の人々と連携し、直に観光振興に関わり、また各地の文化財や自然公園など地域資源の保全の仕組みや観光利用を座学で学び、且つ現地を調査。さらには海外の先進観光地の観光政策・産業を英語で学修するなど、まさに多様な観光教育のニーズに対応しています。

## 事例紹介

神戸と横浜は、共に江戸末期の安政6年（1859年）に所謂「安政の五カ国条約」の締結により開港し、外國人の居留と貿易が公認された日本の近代史上特に重要な都市です。そして神戸と横浜の両都市に残る「旧居留地」では、当時の歴史的建築物を修復し、耐震性を強化した上で、新たな商業利用を行っています。どちらも現在では、お洒落で魅力的な都市空間を醸成しています。アジア・グローバル観光交流分野では、フィールドワークで神戸と横浜を訪れ、「共通項」を持ち合わせる両都市が、歴史的な街並みや異国の文化を守り育みながら、観光資源としてどのように活用しているのかを学んできました。これら二つの街には、やはり同じく「中華街」があり観光客で賑わっています。しかし意外にも、店舗にははつきりとした違いも。神戸の中華街（南京町）では、各店舗の軒先には屋台も設けられ、客の目を惹いていますが、横浜では殆ど屋台は見かけません。観光ビジネスにおいては異なる施策があることを見発見するのです。こういう「気づき」もフィールドワークの醍醐味の一つ。価値ある研究のきっかけとなるかもしれません。

## コモンズ紹介

仏像の服を作るワークショップ。奈良ドリームランド跡地を舞台にした作品展示。鹿のお土産を実物大に作り替えて展示。そんな「奈良ができるなら」というアートプロジェクトの案を都市文化コモンズの学生が考え、奈良県立図書情報館で展示しました。

アートプロジェクトは、制作のプロセスを重視したり、社会的な文脈で表現を行ったり、アートを媒介に地域を活性化させたりする取り組みを指します。アートプロジェクトの企画を考えることは、「地域創造」を学ぶ学生にとって格好の学習機会となります。そこで、都市文化コモンズの西尾研究室では、アートプロジェクトのアイデアを実現前のプロポーザルや試作としてまとめた。

ひとつ目の例として、「大仏鉄道の車輪をデザイン」という案を紹介します。大仏鉄道は、今から100年以上も前に実在した、加茂と奈良を結ぶ9.9kmの路線の愛称です。今はなき鉄道のその愛称から勝手にイメージしたのが、車輪を擬人化した「きかんしゃトーマス」のように、大仏が車輪になって鉄道上を走っている光景でした。「大仏が列車になつたらどんな形になるだろう。大仏をモチーフにした列車の絵を描いてみよう」。こんなお題でワークショップをして、いろいろな人が想像／創造した「大仏鉄道」を見てみたい。さらにはそれら車輪を実物大に造形して神輿のように担ぎ、かつての路線上を練り歩くことができたら、地域を巻き込んだ新しいお祭りができるのではないか……。国内外の先行事例も学び、こうした構想をパネルにまとめました。

以上の例は、都市文化コモンズの取り組みの多く一部にすぎません。多様な専門領域の教員が揃う都市文化コモンズでは、社会学、歴史学、文化人類学、芸術学、観光学などの複眼的視点から、個々の学生が関心のあるテーマと方法で研究を進めることができます。ゼミでは、所属する学生全員が「文献講読演習」「調査演習」「創作演習」と異なるタイプの演習を履修します。つまり、都市に関する歴史や理論を知り、フィールドワークで対象にアプローチし、想像力で何かを新しく提案したり創造したりすることを総合的に学ぶのです。このように、都市文化の過去、現在、未来を見通してゆく方法を身に着けることができるのですが、都市文化コモンズの魅力です。

試しに学生が  
デザインした  
大仏鉄道の車輪

「鹿のお土産を  
実物大に作り  
替えて展示」の  
完成イメージ

アートプロジェクトの  
第一線で活躍を  
続ける日比野克彦氏の  
トークイベントを開催

アイデアを  
導くために実施した  
路上観察の様子

香芝市での  
学生と職員による  
合同ワーク  
ショップ

大台ヶ原の  
景観保全の  
仕組みを学ぶ

賑やかな  
横浜中華街での  
見学

京都御苑の  
景観保全の  
仕組みを学ぶ

## 学びのOneシーン

香芝市での  
学生と職員による  
合同ワーク  
ショップ

大台ヶ原の  
景観保全の  
仕組みを学ぶ

賑やかな  
横浜中華街での  
見学

京都御苑の  
景観保全の  
仕組みを学ぶ



## コミュニケーションデザイン

### コモンズ

- 一 コミュニティ政策
- 一 持続可能なコミュニケーション
- 一 共生・協働のまちづくり



宇陀市うたの古市場周辺地区まちづくり現地調査の様子  
「カエデの郷ひらら」でのヒアリング調査



## 地域経済 コモンズ

- 一 地域経済
- 一 流通・マーケティング

**事例紹介**

地域経済を学ぶことの意味

地域は生産、雇用、消費、流通といった経済活動の場であると同時に、私たち人間の生活の場でもあります。私たちの生活が安定し、地域が自立するためには、地域が経済的に自立しないければいけません。地域経済コモンズゼミでは、学びのテーマとして「地域経済」、「地域産業」、「流通・マーケティング」の3つを設けていますが、大きく分けると経済分野と経営分野になります。担当教員がそれぞれの専門分野から地域経済の仕組みを理解するための指導を行います。地域経済に関する文献の講読やディスカッション、企業・自治体・地域等への現場訪問等を通じて、教員と学生がともに学びます。経済・経営の知識は社会に出て働く上で必要不可欠なものです。コモンズゼミでの学びを通じて、実際の経済の動きや企業の取り組み、地域の課題について関心を持ち、主体的な学びができるようにしています。

学びのOneシーン

食品加工は難しい

地域実態調査の準備会議

世界の喫茶文化を知る

食品工業の安心安全の取り組みを知る

### コモンズ紹介

#### 2年生

2年生については、2つの授業で今年度、展開しています。

##### ① 調査基礎演習

大学は研究教育機関であるという極めて当然のことを真正面から受け止め、研究を通して学生一人一人が基礎的な知力を身につけることを目的に、本演習を行なっています。研究とは、自分が大事だと思う問題を探求していくプロセスです。そのためには、他人から与えられた問題を義務的に考えるのではなく、自分が取り組むべき問題を見出し、主体的に取り組むことです。研究テーマが何であれ、それが「自分の問題」として明確になったとき、その人の本当の探求が始まります。

##### ② コミュニティデザインに関するオムニバス講義

2年生のもう一つの学びの柱は、コミュニケーションに関するオムニバス講義です。これは、5人の教員が、それぞれの学問領域からコミュニケーションへのアプローチを講義形式で紹介しています。主な内容としては、座学を中心とした理論的アプローチを追求する学びとともに、一方で実践的なアプローチとして、フィールドに赴き、課題発見や調査の方法に関する技術習得などです。これにより、学生の知的関心を高める試みを行っています。

#### 3年生

3年生についても、2つの授業を中心に行なっています。

##### ① プレ卒論ゼミ

梅田ゼミ「関係性の諸問題／ライフイベントとジエンダー・「親密な関係」に焦点を当たした社会調査」、亀山ゼミ「グローバル化と共生－多文化共生の時代を生き抜く知恵をみつけよう」、神吉ゼミ「十津川村谷瀬集落と権原市今井町の現場から社会を考える」、佐藤ゼミ「少子高齢化が進む郊外住宅地（奈良市鳥見地区）の課題考察と取組み検討、その実践」、高津ゼミ「社会はいかにして成り立つか＆田園回帰1%戦略」、玉城ゼミ「災害につながる人・復興過程で持続／変化する組織・大震災を経験した神戸市長田区の外国人」、鶴谷ゼミ「地方分権時代の地方政府における課題」、堀田ゼミ「公共性を考える」



### 学びのOneシーン



平成27年度は、コモンズゼミIの学生が、宇陀市榛原地区及びうたの古市場周辺地区的現地調査と地域課題の解決に取り組みました。平成28年度は人口減少に悩む中山間地域の定住促進をテーマに取り組みます。

学外研修については、「食」をテーマに掲げました。奈良県北部から京都府南東部の地域では、茶業が盛んであり、その成り立ちを学ぶために「福寿園Cha遊学センター」を訪れました。当施設では、茶業の歴史、茶畑の管理について学ぶだけでなく、海外の喫茶文化についても体験できるようになつて、日本の煎茶と他国のお茶を飲み比べて、違いを実感しました。

奈良県には中山間地域が多く、こうした地域の活性化策の一つとして農業の六次産業化が取り上げられていますが、中西部地域にある「當麻の家」では、こんにゃくと地粉を用いたうどんの加工を体験しました。こんにゃくなどは身近な食べ物ですが、加工体験は初めてでした。スタッフの適切なアドバイスとご助力により、各家庭へ土産として持ち帰られる出来映えになりました。6次産業化の基本となる食品加工の難しさの一端が理解できたようです。

大都市近郊には食品加工工場が立地していますが、「明治製菓」と「江崎グリコ」という2つの食品工場を訪問し、日ごろから食べているお菓子がどのように作られているのか、また企業は食品の安心安全にどのように取り組んでいるのかを比較しました。同日に同業他社に出向くことで、各社の工場見学の位置づけや取り組みを始めた時期が異なることが観察できました。



# 東アジア・サマースクール 2016

2016  
East Asia Summer School



奈良県立大学では奈良県と共催で、東アジア諸国間の交流・次代を担う人材育成を目的に「東アジア・サマースクール」を開講しています。今年は8月18日(木)～30日(火)の13日間にわたり、県大生7名を含む国内外からの44名が受講しました。



// 全国で活躍する15名の著名な講師陣による講義を実施。全てを公開講座とし、多くの県民の方にも聴講いただきました。//

## 講師紹介

岩村敬 元国土交通事務次官、奈良県立大学客員教授	王敏 法政大学教授	岡本健 奈良県立大学准教授 COC/COC+推進室長	松本紘 理化学研究所理事長、前京都大学総長	森博達 京都産業大学教授	田中克 京都大学名誉教授、舞根森里海研究所長	岡本彰夫 前春日大社権宮司、奈良県立大学客員教授

田辺征夫 元奈良文化財研究所長、奈良県立大学特任教授	小倉紀蔵 京都大学大学院教授	竹内行夫 元外務事務次官、元最高裁判所判事、奈良県立大学客員教授	上垣外憲一 大妻女子大学教授	渡辺賢治 慶應義塾大学教授	中谷哲弥 奈良県立大学教授 地域創造学部長	辻哲夫 東京大学特任教授 元厚生労働事務次官	李鍾元 早稲田大学大学院教授、同学韓国学研究所長

## グループ討議



1日の講義の後には、講義に基づくテーマのもとグループ討議を実施、互いの相違点や類似点への気付きを促します。

## ホームビジット



## 視察研修

県内視察研修を実施し、奈良県の文化遺産や先端技術にふれ、奈良の地でしかできない視察研修を体験します。



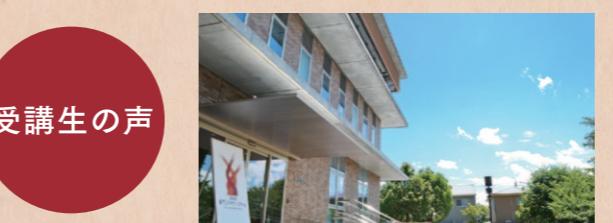
※唐招提寺  
寺社(唐招提寺・東大寺)

橿原考古学研究所・附属博物館

万葉文化館

寺社(唐招提寺・東大寺)

## 受講生の声

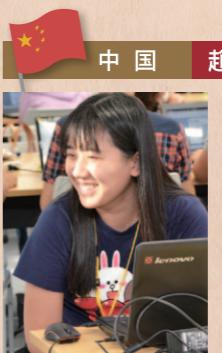


日本 多田悠季 (奈良県立大学)

サマースクールに参加した2週間は、私にとって今まで一番一生懸命になれた時間だったのではないかと思います。一流の講師による講義の後、東アジア各国の人とディスカッションを重ね、終了後もチームで発表の準備をするという毎日でした。このような日々の中で、壁にぶつかることも意見が分かれることもありました。その度に励まし合い、話し合い、自分の頭で考え、意見を出し、サマースクールを終えた私は一回りも二回りも成長したのではないかと感じています。最高の仲間と最高の時間を共有できたサマースクールは私にとって一生の宝となりました。

韓国 パクジンホ (大邱大学校)

東アジアの若者たちが日本の奈良に集まり、とても有意義な2週間を過ごすことができました。各国の歴史、文化など様々な分野で講義を受け、全ての講義がとても充実し貴重な内容を伺うことができました。また、成果発表会に向けてのグループワークでは、私のグループは少子高齢化について研究しました。昨今、東アジア諸国では少子高齢化が大きな問題となっています。グループワークで学んだことを忘れず東アジアの未来を真剣に考えていくたいです。今回得た最も大きなことは、たくさんの人と友達になったことです。この縁を大切にして今後もずっと交流を続けていきたいと思います。今回はかけがえのない時間を過ごさせて頂き本当にありがとうございました。



中国 趙妍 (上海師範大学)

サマースクールに参加できたことは私にとって貴重な経験となった。文化、環境、経済、歴史、観光、教育、少子高齢化問題などたくさんの観点から、東アジアの国々について考える機会を得ることができる。東大寺や橿原考古学研究所などへの視察、ホームビジットで過した時間も楽しい経験となった。2週間、毎日チームの仲間と顔を合わせ色々な話をするといつの間にか友達になっていた。将来、私の後輩もチャンスがあればぜひ参加した方が良いと思う。



台湾 王政 (開南大学)

サマースクールは私にとって大変貴重な経験となりました。色々な国の人々に会えて本当に良かったです。たくさんの友達もできました。共通の言語は日本語です。日本語があまり分からない私には少し難しく、ただ生活したり、対話をしたり講義を受けるだけでも苦労しました。しかし、皆はとても親切で日本語が少し間違っていた時でも真剣に話しかけてくれました。日本語は難しいけれど、話すと楽しくもっと言いたい事を日本語で話せるようになります。



ベトナム チャン・グエン・ミン・フオン (エコ外国语大学)

サマースクールのおかげで私は色々な記念をもらいました。最初の日は分からないことが一杯で、緊張するし、自信もなくあまりしゃべることができませんでした。しかし、時間の経過とともに皆のあたたかさに触れ、いつの間にか、私の第二の家族のように感じていました。13日間はとても短く、もっと時間ががあれば良かったと感じます。歴史や文化や政治など、色々なことを学ぶことができました。サマースクールは貴重な機会と、私を成長させてくれたところです。

## 成果発表会



本スクールでの学びの集大成として関係者の聴講のもと成果発表会を実施しました。



# Club activities



## バスケットボール部

こんにちは！私達バスケットボール部は、毎週木曜日に体育館で活動しています。今年は一回生もたくさん入部し、より賑やかになりました。5月には奈良の市民大会にも出場、一回生も入れた新しいチームで挑み、チームワークも強化できたと思っています。私達バスケ部では、初心者も経験者も、先輩も後輩も、男子も女子も関係なく、一つのボールを追つて走り回っています。みんなとつても仲が良く、一生懸命に活動しながらもみんなが楽しめるような雰囲気づくりを大切にしています。バスケ好き大歓迎！興味がある人はいつでも遊びにきてくださいね！これからも私達バスケットボール部をよろしくお願ひします！



# 図書推進団体 ほ よ も **HONYOMO**

「こんにちは、図書推進団体HONYOMOです！」  
HONYOMOは、本を身近に感じてもらえるための活動を行っています。活動場所は様々で、顧問の先生や図書館の方々など多くの人に支えられて、自由な活動をさせてもらっています！他団体とコラボしてひとつイベントを実施することもあります。本の紹介で競い合う『ビブリオバトル』やオリジナルのしおりを作る『しおりワークショップ』、その他にも色々なイベントをして本や図書館の面白さを伝えています。

また、自分たちで新しいイベントを企画することもできます！部員のしたいことをし、かつ図書推進ができることが1番の目標です。これからも、HONYOMOをよろしくお願いします！



◀ 地域での  
ボランティア

く、「薬師寺でのイベント」や「斑鳩商工祭り」等の地域のボランティアにも参加しています。このように、私たちは学内外で様々な活動をしています。では、執行委員会で行っているイベントについてより詳しく紹介します!!

CLEAN PROJECT



こんにちは！学生会執行委員会です。  
私たち学生会執行委員会は、学生の皆さんによりよい学生生活を送つていただけるよう日々尽力しています。主な活動として、「クラブオリエンテーション」をはじめとする学内イベントの企画運営があります。参加してくれた方に楽しんでいただけるよう、執行委員一同でアイデアを出し合い企画しています。また、イベントだけでなく「K A S A Y A」や「図書企画」などの学生生活を豊かにする企画も行っています。活動は学内だけではなく

CLEAN PROJECTとは、普段お世話になっている奈良県立大学のキャンパスを、私たち学生自らの手で掃除しよう！という行事です。本館から4号館、新しく完成した地域交流棟、県大の隅から隅まできれいにします。県大のクラブやサークル、委員会まで、たくさんの学生に参加してもらい、毎年12月に開催する恒例行事となっています。今年も開催する予定です。

ので、たくさんの参加をお待ちしています！

3年 長谷川実優



上  
長谷川実優

オープニングキャンパス

奈良県立大学のオープンキャンパスは、私たち学生会執行委員会と生協学生委員会が共同運営しており、毎年、多くの受験生や保護者の方などに訪れていただいています。学生が学内施設を案内する「キャンパスツアー」や、赤本がない県大を受験するためには作成した「桃本」など、様々な企画を学生自身が企画し、責任もってやり遂げ

サークルを見つけることができます。今年も盛り上がり、多くの新入生に楽しんでもらいました。



2年 竹中文都・滝沢啓介

## ●総括メッセージ



3年 近藤穂波



6 クラブオリエンテーション



う、学生が協力し合つ  
ています。県大の受験を考えている方に県  
大の魅力をより多く知つていただけるよ

# トビタテ留学 JAPAN



「トビタテ留学 JAPAN」とは、産業界と政府が大学生の海外留学をバッカアップ支援しているもので、採択者は公費によりその留学が支援されます。応募に際しての計画書づくり、厳しい選考、採択後も事前の合宿研修などがありますが、大学生の海外留学における大きなバックアップとなっています。

海外での「異文化体験」や「実践活動」を学生時代に経験することは、グローバルな視点で物事を考えるきっかけとなるものであります。

このたび、本学からはじめて【トビタテ留学 JAPAN】により、2年生の佐藤可奈子さん(都市文化「モンズ」)がカピオラニ・コミュニティカレッジ(ハワイ)へ8月から留学します。



## 観光学国際セミナー



2月10日

(水)、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観光ホスピタリティなどについて発表いただきました。

## 第9回なら観光シンポジウム



2月14日(日)

奈良信用金庫、奈良県立大学共催による「第9回なら観光シンポジウム」開催いたしました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

## シニアカレッジ



4月20日(水)、奈良県文化会館国際ホールにてシニアカレッジ開講式を行いました

## サマー・パー・ティー



7月12日(火)

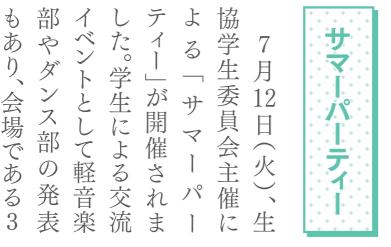
奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施しており、4月27日、二階堂高校にて本学の栗村俊夫准教授による特別講義を実施いたしました。

（土）、文部科学省選定事業である「地(知)の拠点整備事業」について、3年目までの取組、成果を報告するためのシンポジウムを開催いたしました。

3月12日



## オープンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## （地(知)）の拠点整備事業シンポジウム



2月10日

## 高大連携講座



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## 学生選書



2月10日

## オーブンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## AZi祭



3月12日

## オーブンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## AZi祭



3月12日

## オーブンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## AZi祭



3月12日

## オーブンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## AZi祭



3月12日

## オーブンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## AZi祭



3月12日

## オーブンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## AZi祭



3月12日

## オーブンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## AZi祭



3月12日

## オーブンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## AZi祭



3月12日

## オーブンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## AZi祭



3月12日

## オーブンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## AZi祭



3月12日

## オーブンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## AZi祭



3月12日

## オーブンキャンパス2016



7月12日(火)

奈良県立大学では、高校教育と大学教育の活性化を図るために「高大連携」に基づく取組を実施してきました。学生が取り組む「やまといろプロジェクト」など奈良への誘客“をテーマに実施しました。

（水）、国際交流委員会主催による「観光学国際セミナー」を実施しました。マリオ・バー・プラン教授、スパラク・アカララングレン准教授をタイ国立コンケン大学より招聘し、観

## AZi祭



## ■奈良県立大学学園祭の告知

秋華祭は今年で51年目となりました。  
この50年間の秋華祭にはきっと、  
いろんな物語があったことでしょう。  
今年もきっとたくさん思い出が残るでしょう。  
2016年のテーマは「みんなで恋する秋華祭」  
小さな大学の、年に一度の学園祭。  
今年は今までの秋華祭を少し変えて、  
様々なイベントを用意してお待ちしています。  
奈良に、県大に、みなさんが恋できますように。



発行日：2016年10月1日  
発行：公立大学法人 奈良県立大学  
〒630-8258 奈良市船橋町10番地  
TEL: 0742-22-4978 FAX: 0742-22-4991

## 平成28年4月1日より、 COC/COC+推進室が開設・始動しました

COC/COC+推進室は、文部科学省が選定した「地(知)の拠点整備事業(COC)」の「地学連携とコモンズシステムによる地域人材の育成と地域再生」(本学のみの事業)と、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の「共創郷育:「やまと」再構築プロジェクト」(奈良女子大学を幹事大学とし、奈良工業高等専門学校と本学の3校連携事業)を推進しております。特に、COC+では、3本柱(県内就職先の開拓、ピア・キャリア・サポートの定着、観光・地域創造学関連の科目提供)を中心に、本学の教育・研究・社会貢献を推進し、それらの成果を活かした地方創生や地域活性化に取り組んでおります。

### ピア・キャリア・サポートの定着



就職や進学、ゼミやコモンズの選択等を学生同士で相談し合える相互扶助システムの構築を進めます

### 観光・地域創造学関連の科目提供



課題解決やフィールドワーク等の実践的な教育プログラムを導入した授業を本学主担当で、3校合同で開講します

### 県内就職先の開拓

アンケート調査や担当者による企業訪問等を通して、「企業が求める人材像と就職活動生のマッチング」を行います

### その他

滋京奈地域人材育成協議会が主催する「地域創造インターンシップ」の企業対応プロジェクトを担当します

### お問い合わせは、COC/COC+ 推進室

メールアドレス ([nara-coc-cocplus@narapu.ac.jp](mailto:nara-coc-cocplus@narapu.ac.jp)) や電話 (0742-93-5296) でお願い申し上げます。



## 第32回国民文化祭・なら2017 第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会 平成29年9月1日～11月30日開催！

奈良県では、「第32回国民文化祭・なら2017」・「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」を全国で初めて一体開催します。  
会期中は、さまざまな文化・芸術イベントが、県内各地で開かれます！

国内最大級の文化の祭典が、日本文化のはじまりの地・奈良で開催！



©NARA pref.